

## 臨床,教育,研究を循環させ,質向上に努めたい

群馬パース学園 総長  
樋口 建介

ひぐち・けんすけ氏

1945年 群馬県生まれ  
 1976年 社会福祉法人ほたか会創設  
 1978年 医療法人社団ほたか会創設  
 1989年 株式会社ベルジレノ(現株式会社ヴィラサージュ)創設  
 1992年 学校法人ほたか会創設  
 1997年 学校法人群馬パース学園創設  
 2002年 総長に就任し現在に至る

※パース(PAZ)はポルトガル語で平和の意

群馬パース大学は看護師、保健師、理学療法士を養成する定員120人の大学です。今年度、4年制大学となって初めて卒業生を世に送り出しますが、おかげさまで1人の学生に対して3000件もの求人が届きました。事業的には利益も出ており、これまでは順調にきているように思います。

こんな小さな地方の単科大学ですが、経済紙などが興味を持ち、取材に来られることがあります。記者の方々は「なぜこんなに小さな大学で赤字にならないのか?」「うまくいっているのなら、もっと定員を増やしたほうがいいのではないか?」などとおっしゃいます。

私は大学の規模を大きくするのはよくないと思っています。学生一人ひとりに目が行き届かなくなり、国家試験の合格率も下がりがねません。「スケールメリット」という言葉がありますが、私はあまり信じていません。質を伴わず、ただ単に大学が大きくなるだけではないでしょうか。

誤解を恐れずに言うならば、私は学校経営をしているつもりはありません。数々の医療施設、介護施設を擁する私たち「パースグループ」に、そして地域社会全体に本学の教育の成果が還元できればそれでいいのです。つまり、私たちの学校経営は利益のためではなく、事業の必要に迫られて行ってきたものであり、換言するならば、夢に向かって全力を注いできた結果、たどることになった道のりだといえるかもしれません。

## 必要に迫られて病院,学校を次々に開設

私が群馬県で4番目となる特別養護老人ホーム「川場春光園」を開園したのは1977年のことです。当時、特別養護老人ホームとは、「病状が固定して治療を要さない老人が入居するところ」だと行政側は説明していました。ところが開園してみると、治療の必要

な重症者が予想外に多く来られました。そうしたことは想定していなかったため、医師がまるで足りません。自分の不勉強も痛感しましたが、このままではやっていけないと思い、厚生省(当時)に相談に行きました。「話が違う」と詰め寄ると、「今からでも遅くないから、近くに病院をつくりなさい」という言葉が返ってきました。想像もしていない言葉でしたが、入居者の現状を鑑みれば私もそれが得策だと思い、様々な努力の末、翌年「ほたか病院」を開設しました。

病院をつくってみてわかったのは、医師、看護師といった医療専門職が地元で非常に不足している現状でした。調べてみると当時群馬県は全国でも下から5本の指に入るほど医療専門職が少なく、とりわけ看護師の不足は深刻でした。私たちが思い描く老人の桃源郷をつくるには自前での人材養成が不可欠だと考え、今度は看護学校を立ち上げることを決意したのです。

ところが、すんなりとは行きませんでした。地元の一部から反対に遭い、他の看護学校が開校されるような状況にもなったために、こちらの計画は取り下げざるを得なくなりました。そこで看護学校ではなく、まずは介護福祉士を養成する「ほたか保健福祉専門学校(現群馬パース福祉専門学校)」を92年に開校しました。その後いくつかのハードルを乗り越え、ようやく98年に念願の「群馬パース看護短期大学」の開校にこぎ着けました。

大学ではなく短期大学からスタートしたのは理由があります。地元で医療専門職が少ないということは、とりもなおさず大学教員になり得る人材も少ないということです。そこで短期大学に来てくださった先生方に就任直後から勉強を始めていただき、同時に実績を上げていただいて、2005年に「群馬パース大学」を開校するに至りました。

この大学は群馬県内でもっともきれいな星空が見えるといわれる、緑豊かな高山高原にあります。当初はこんな田舎に学生が集まるだろうかと心配もされまし

たが、ふたをあけてみれば北は北海道から南は沖縄まで全国から学生が集まり、予想に反して7割が県外出身者となりました。好評いただいている理由として、ひとつは寮費を含めた費用を安価に抑えられた点があると思います。また、様々な臨床現場を持つことによる現場に立脚した教育内容、とりわけ短期大学時代から取り入れている老人看護や地域看護(在宅看護)に関する教育の先進性や、勉学に集中できる学習環境も挙げられるでしょう。

しかし今後は学生の利便性も考え、2010年に高崎市に新キャンパスを構えることになりました。一方で本学の原点である高山キャンパスは残し、そこをハリー・ポッターさながらの学校と学生寄宿舎を備える教育寮として再構築したいと考えています。

## 大学単体で利潤を追求しない

ご承知のように、医療の世界は今大きく変わろうとしています。看護師の裁量が広がり、今後は医師に代わって医療行為を行うような機会も増えていくでしょう。となれば看護師もリスクマネジメントの一環として、民事訴訟や刑事訴訟の知識が必要になります。そうした社会の要請に加え、私たちの臨床現場では、日々解決すべき課題や研究すべき材料が山のように出てきます。そこで本年4月に「群馬パース大学大学院」を開校することとなりました。

これにより私たちのグループに「臨床」「教育」「研究」という体系が整うことになります。これらの関係を一層緊密にし、臨床→教育→研究→臨床…というサイクルを循環させて臨床現場に質的向上をもたらすこと。これが私たちに課せられた最大の使命です。

すなわち学校単体で利潤を追求するのではなく、グループトータルで利益を確保し、そして何より、私たちの成果を地域社会に還元することを第一の目標として、今後もこれまで以上にグループ運営に情熱を注いでいきたいと考えております。